

対象	小学校 5 学年以上
教科	国語科・特別活動
該当 単元	小学 5 年 (その②) 「言葉」 ・ 和語、漢語、 外来語 朝の会・帰りの会 ・ 先生の話 (講話) など
教科書	光村図書等
掲載日	2019. 4. 7. 朝刊 12 版 35 面

問1：「話すプロ」の代表として大石さんは、新元号についてよい印象としてどんなことを語っているでしょう。大石さんの言葉を書き出しましょう。

問2：専門的な分析から、

- ① 語尾が「下がる」起伏型
- ② 語尾が「下がらない」平板型の例が「しょうわ」で示されています。同じように「令和」を→やーを使って表記して、声に出して言ってみましょう。

① ()

)

② ()

)

問3：大石さんは新元号が定着するまで最低5年かかると予想してみえます。

その理由を書き出しましょう。またあなたの予想も書きましょう。

理由

あなたの予想と理由

令和

どう話す

「話すプロ」の代表格、アナウンサー。名古屋のCBCテレビ平日夕方のニュース情報番組「チャント！」でメインキャスターを務める大石邦彦さん(49)は、新元号について「音としてすっきりしている。言葉の意味だけでなく、音にもこだわって選んだ部分はあると思う」と印象を語る。ただ、響きについては、母音で始まる方が「音として残る」と指摘。「れない

わ」の発音自体は「難しくない」ものの、「フ行が苦手な人は結構いる。ぱつと言えない人はいる」という。専門的な分析はアクセントにも。日本語(標準語)のアクセントは大きく分けて、語尾が「下がる」起伏型と「下がらない」平板型がある。「昭和」を引き合いにし、「しょうわ」なのか、「しょうーわ」なのか。令和がこれから、どのように落ち着いていくのかな」と着目する。

新元号が世間に定着するまでは「最低五年かかる」と予測した。それでも平成に比べれば「早い」。違いについては「昭和は六十四年と長く、激動と言われた時代の。そのため平成への移行期間は結構必要だった」と説明する。ただ、現在のテレビの放送は「西暦」を用いるのが基本で「昔ほど元号を使わない。今の時代、新元号が生活自体になじむスピードはちょっと遅いかもしれない」と話した。

アナウンサー
大石邦彦さん

今後のアクセント注目



新元号発表を伝える本紙号外を手にするCBCテレビの大石邦彦アナウンサー＝名古屋市中区で

【活用にあたって】

元号について考えるには今年が絶好の機会だと思います。国語の指導要領には「言葉の豊かさに気付く」という内容が示されています。「言葉のリズムを楽しんだり、言葉を用いて発想を広げたり、言葉を通して人と触れ合ったりするなど、言葉のもつよさを十分に実感すること」と。

音声言語の学習は、地域による方言やイントネーションの違いから、標準語を基本としながらもなかなか掘り下げてみる機会が少ないのではないのでしょうか。

「令和」と口に出してみると、大石さんの指摘する「ラ行の言いにくさ」を感じたり、起伏型と平板型の違いを感じたりできると思います。

「話す」という側面からのワークシートですが、「書く」という側面からのワークシートも97に用意しました。併せて活用ください。

解答例

問1：音としてすっきりしている。

問2：①れいゝわ ②れいーわ

問3：昔ほど元号を使わない。今の時代、新元号が生活自体になじむスピードはちょっと遅いかもかもしれないから。予想は根拠を明確にして書けているとよい。